

読	ん	で	み	た	い
こ	の	一	冊		

大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員 田中宏昌



『あれか、これか「本当の値打ち」を見抜くファイナンス理論入門』

●野口真人 著 ダイヤモンド社 1,600円+税

「ファイナンス」と聞いて敬遠する方も多いと思いますが、本書はリスク・お金・価値の本質をわかりやすく説いた、ファイナンス理論の入門書です。著者は2500件超の企業価値評価を手がけたファイナンスの専門家ですが、目次に目を通すと、本書がテクニカルなファイナンス理論の解説書ではなく、かといって実務教本でもないことがわかります。著者は「考え方を理解すれば、お金に関する正しい意思決定のための尺度を身につけることが出来る」と主張し、「より良い選択の仕方」「より良い生き方」への指南書とも言うべき内容となっています。

本書の構成は以下の通りです。

はじめに

第1章 「ねだん」と「ねうち」はちがう

第2章 いちばん無価値なおカネの話

第3章 いま、いくら？

第4章 不確実性とは何なのか？

第5章 正しい借金の考え方

第6章 リスクだけを下げる錬金術

第7章 絶対に後悔しない買い物

第1章と第2章では「価格」と「価値」に関するファイナンスの基本的な考え方の解説です。その価値を決定づけている「時間」「金利」「リスク」を第3章と第4章で確認でき、そして第5章以降ではノーベル経済学賞を受賞した4つの理論、すなわちMM理論、現代ポートフォリオ理論、CAPM理論、オプション理論の解説を通じて「価値の見抜き方」を学べます。

我々は日々の生活のなかで常に「選択」を迫ら

れています。「選択」の連続、つまり「価値判断」の連続です。その際「価値を正しく見抜くこと」が何よりも重要であり、それを見極めるシステムこそがファイナンス理論なのです。しかし現実における我々の選択は、この理論から逸脱して行われていることが実に多いのです。

例えば「①ギザのピラミッド、②ヴェルサイユ宮殿、③現金10億円のどれかを差上げます。選んでください。」と問われたら、大多数の方は③を選ぶでしょう。しかし「ファイナンスが言う価値とは『将来生み出すキャッシュフローの総額』である」という考え方からすれば、果たして③は正解なのでしょうか。

「正しく価値を見抜くためには、まず『キャッシュ至上主義の呪縛』から解放され、お金の『まやかし』を見破る必要がある」と本書は説いています。あらゆる局面の「あれか、これか」に正しく向き合うために、本書を手にとってみてはいかがでしょうか。

【著者略歴】

プルータス・コンサルティング代表取締役社長/企業価値評価のスペシャリスト。1984年、京都大学経済学部卒業後、富士銀行(現みずほ銀行)に入行。1989年、JPモルガン・チェース銀行を経て、ゴールドマン・サックス証券の外国為替部部長に就任。「ユーロマネー」誌の顧客投票において3年連続「最優秀デリバティブセールス」に選ばれる。2004年、企業価値評価の専門機関であるプルータス・コンサルティングを設立。